

小 論 文

(医 学 部)

— 2月11日 —

以下の文章にあるように、医療や生活に人工知能（AI）が活用される未来がすぐそこまで来ています。あなたは、このAIをどのように役立てようと考えますか。それとも逆に、恐怖心からAIの活用を躊躇しますか。500字以内で具体的に述べてください。

人工知能

人工知能（AI）の進化が著しい。2016年3月、チェスや将棋より難易度が高いとされる囲碁の対局において、米グーグル社のAIが、世界最強といわれる韓国の李九段を4勝1敗の圧倒的強さで退けた。AIはプロ棋士の定石を覆す独創的で突破力のある手を繰り出し、観衆を驚かせた。「ディープラーニング（深層学習）」と呼ばれる人間の脳をまねた手法により、コンピューターは自らゲームの勝ち方や自動車の運転を学ぶ。AIは技術的特異点を突破し、今後爆発的に進化し我々の生活に関わってくると予想される。

2015年10月30日、日本銀行の金融政策決定会合について、事前にほとんどのエコノミストが追加緩和を予想していた中、野村證券のAIは日銀が緩和に動かないことを見事に的中して見せた。AIは人ではとても読み切れない膨大な量の文章やデータを読み解き、感情や欲に左右されることなくルールに従って答えを導く。

米国IBM社はAIを医療に活かそうとしている。患者の電子カルテを読み解き検査や治療法を提案したり、画像診断を助けたり、その患者にふさわしい臨床試験をマッチングさせたりもする。

日本マイクロソフト社のAIは、「話し好きの女子高生」という性格を与えられ、LINEやTwitterで270万人以上の人とつながり日々大量に会話している。今風の言葉遣い、絵文字・顔文字を用いて、ときに小悪魔的な返答をしてくれるという。やがて、鉄腕アトムやドラえもんのような友人のできる日が来ることも、現実味を帯びてきた感がある。

一方、問題も明らかとなりつつある。米国マイクロソフト社のAIはTwitter上で差別的で過激な発言を連発し、公開からわずか1日で運用を停止された。悪意のある複数のユーザーが、対話機能を悪用し不適切な発言をするように教え込んだことが原因とされる。また、前述の囲碁では1敗した対局において、AIがどうして誤った手を繰り出したのか分析するのは難しいという。逆に、AIの出した答えが結果的に正しくとも、その時点では人間には理解できないという場面も少なくない。

AIに対する警戒心の根底には、いつか人間に制御できなくなるという恐怖心がある。しかしうまく使いこなせば、医療の質向上のみならず、様々な社会問題の解決に繋がる可能性を秘めている。